

日本語教育機関教育活動評価

自己点検・評価票

2025年 4月30日

日本語教育機関：国際アカデミーランゲージスクール

実施責任者：校長 阿部 由香

点検・評価項目	評価
1. 教育の理念・目標	
【理念】わが国にて勉学を志す外国人を受け入れる事には大きな意義がある。彼らは日本文化を理解し、やがては親日家として活躍、期待される貴重な方々である。この方々を教育する日本語教育機関の役割、責務は大きく、より一層の充実と質的向上に努め、健全で安定した経営を実施、明確な教育目標と人格を尊重し、その可能性を最大限に生かせる教育を行う。 【目標】 ・日本の社会と文化を体感しながら自ら柔軟に成長できる力と心を身に付けさせる。 ・地域社会との交流を大切にし、日本で自己実現可能な国際社会に対応しうる人材を育成する。 ・目標達成ができる日本語力を身に付けさせ、更に広い世界にチャレンジできる自信を持たせる。	
2. 学校運営	
2.1 日本語教育機関の告示基準に適合している。	適合している
2.2 組織運営・人事管理・財務管理に関する規定が整備されている	A
3. 教育活動	
3.1 教育理念に基づいた教育課程が編成されている。	A
3.2 生徒が到達すべき日本語能力の目標が明示されている。	A
3.3 成績評価や進級・修了の判断基準が明確である。	A
3.4 教員の指導力向上・教育課程改善のための取り組みが行われている。	A
4. 学習成果	
4.1 生徒の日本語能力の向上が図られている。	A
4.2 生徒の希望進路を適切に把握し進学率の向上が図られている。	A
4.3 卒業生のキャリア形成課程を把握し、その情報を伝える事で在学生への教育活動の改善につなげている。	A

5. 生徒支援	
5.1 入学時より学生の希望進路を把握し、一貫した進路指導が行われている。	A
5.2 日本社会を理解し、地域住民に溶け込めるようゴミの捨て方等も含めた生活オリエンテーションを入学時より行っている。	A
5.3 交通安全・防犯・地震等に関し映像媒体を使用して説明している。	A
5.4 病院引率、事故の対応等、学生の健康管理を担う組織体制がある。	A
5.4 学生の資格外活動に関して指導・相談の組織体制がある。	A
5.5 緊急時における体制が整備されている。	A
6. 教育環境	
6.1 日本語教育機関としての施設・設備が十分に整備されている。	A
6.2 学習目標達成のために適切な教材を選定している。	A
6.3 学習効率を図るための環境整備がなされている。	A
7. 入学者の募集	
7.1 入学者の選考に関しては、学習能力、学習意欲、経費支弁能力、日本語能力等について根拠資料を精査し、適切な方法で確認している。	A
7.2 入学者の選考に当たっては、担当職員が面接を行うよう努めている。	A
7.3 学生募集活動の際に学校情報や日本での留学生活について正確な情報が伝えられている。	A
8. 財務	
8.1 中長期的に財務基盤が安定している。	A
8.2 予算・収支計画が有効であり妥当である。	A
8.3 財務について会計監査が適切である。	A
8.4 財務情報の公開体制が整っている。	A
9. 法令遵守	
9.1 各種法令の遵守と適切な運営が行われている。	A
9.2 個人情報保護の取り組みが行われている。	A
9.3 地方出入国在留管理局、関係官公庁への報告を滞りなく行っている。	A
9.4 自己点検・評価の実施を行い、改善に努めている。	A
9.5 自己点検の公開を行っている。	A

10. 地域貢献・社会貢献	
10.1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	A
10.2 生徒へのボランティア活動を推奨・支援している。	A
改善への取り組み：コロナ渦以降、従来通りの学生の来日が叶い喜ばしいことではあったが、学生管理と授業計画を軌道に乗せる事で手一杯になってしまった。来年度以降は職員での話し合いを元に新しい取り組みをしていきたい。	

評価方法

- ・ A:「達成されている」あるいは「適合している」
- ・ B: ほぼ達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる。
- ・ C:「未達成」あるいは「適合していない」